

北川ダム発電再開 水位回復、調整会議を終了

29.6.8

「北川における漏水に関する調整会議」は一日、延岡市の国土交通省延岡河川国道事務所であった。県や同市など関係機関職員約20人が参加。少雨の影響を受けて先月6日以降発電を停止していた北川ダムの貯水率が、降雨で回復

したことを確認した。2日からの発電を再開している。

北川ダムを管理する大分県企業局の職員が一日現在で同ダムの有効貯水率が92.5万8千ト、貯水率は27・4%確保されたと報告。梅雨に入り、今後雨が期待できることから、北川発電所の運転を1日1・2時間再開し、今後、下流への洪水放流に注意しながら運転時間を延ばしていくことが発表された。

同事務所職員が五ヶ瀬、祝子、北川の3河川の状況についても説明。過去10年で最低水準となっていた水位や流量が回復傾向にあることが伝えられた。

また、漏水状態だった河川の水位などが回復したとして、同会議を今回で終了することを確認。今後は、漏水の影響で、県や市などの関係機関に調整放流などの要請があった場合、再び調整会議を開催することを決めた。

一ツ瀬ダムの 発電放流再開

6/8

九電

九州電力は7日、漏水で3月20日から止めていた一ツ瀬ダム(西都市)の発電放流を再開した。降雨に伴い発電可能なダム水位を上回ったため。当面は朝方や夜間に時間を区切って発電放流する。7日は

午後7時から約1時間放流。出力は一般家庭約1万5千世帯分に当たる約4万5千キロワット(最大出力18万キロワット)とした。

九州電力高崎支店広報グループや県河川課によると、同ダムでは、取水口がある標高1700メートル地点を水位が上回らない限り発電できない。貯水率が0%となった3月20日以降はこの標高を水位が下回り、今月6日ようやく回復。7日午前9時には標高171・42メートルに達し、貯水率も3・3%に回復した。同グループは「電力の安定供給ができるよう、しばらくは出力を抑えながらダム水位を標高1800メートルまで回復させたい」と話している。